

《論文》

空間デザイナーの思想とデザイン空間の実現に関する研究*

A Study of Philosophy of Space Designers and Realization of Designed Space

中西正明**
NAKANISHI Masaaki

ABSTRACT

The author examined the association between Dow Jones Industrial Average and realization of designed space. As a result of investigation, the author confirmed a strong correlation. The master architects published their imaginary designed space drawings for the recession period and actually built it for the economical boom period. In the recession, except the information technology age as now, space designers should broadcast their imaginary designed space by pre-made walk-through movies from video-sharing websites such as YouTube; and the real-time walk-through movies from their blog by utilizing Virtual Reality Modeling Languages.

背景と目的

建築家等の空間デザイナーがそのデザイン空間を実現することは、クライアントの資金で、クライアント等の使う建築空間を構築することである。この条件内で、建築家等の空間デザイナーが自身の作品性の介在を実現するのは、ややもすると単なる自己主張の押し付けとなる恐れがある¹⁾。強いて公共性のある主張をあげれば街並み景観への配慮等であり²⁾、クライアントの利益に結び付くのは新しいライフスタイルの提案等であるが³⁾、本来、建築はコスト、機能等のバランスの中で生まれるもので、デザインはその一要素に過ぎない(図1)。建築家の作品にクライアントが資金を出し、かつそこに住むのは、コストや機能を越えた満足感を与え得る時であり(図2)、空間デザイナーが目指すのはこの領域であろうが、そこに至る道は決して平坦ではない⁴⁾。



図1 クライアントが建築に求める価値観

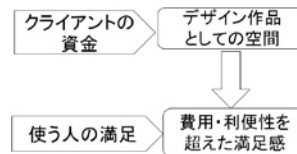


図2 デザイン作品を残す価値観

もとより、建築設計コンペによって、建築家等の空間デザイナーが、クライアントの顔色をうかがうことなく受注を果たすことは可能とされているが、現実には、官選審査員の裁量次第であり⁵⁾⁶⁾、政治的・経済的背景から審査以前の不透明要素も多く⁷⁾、優秀案が選ばれるとも限らない⁸⁾。

* 2010年12月16日受理
** 名古屋学芸大学短期大学部

また、最優秀案に当選した時でも、実際にその意図通りには建設されない場合も多い⁹⁾¹⁰⁾。

こうした束縛から逃れ、デザイン空間の実現へのこだわりを捨て、ドローイングや思想を発表することで「デザイン空間の実現を伴わない建築思想家＝アンビルドアーキテクト」として著作や講演等で生計をたてる道がある¹¹⁾。これは邪道のように見えるが、20世紀の建築史を俯瞰すると、こうした深い思想を経たアンビルドアーキテクトがついにデザイン空間の実現に至る時、それまでの建築様式の行き詰まりを打開して再構築する役割を果たしてきた事例が散見される。建築批評家の馬場璋造も、思想とデザインの関係こそが建築家を差異化する最大要因であると述べている¹²⁾。しかし現在は世界同時不況以降の資金難で、すぐれた思想に基づく大胆な空間デザインの実現が非常に困難な時代である¹³⁾。

上記の背景を踏まえ、本論文では、「不況期の建築思想の発信が好況期のデザイン空間の実現に寄与する」という仮説を立て、過去の不況期に建築家等の空間デザイナーが自らの思想を発信しデザイン空間の実現に至った過程を検証し、景気動向との関連性の実証を通じて、現在の建築家等の空間デザイナーの活動の参考に供することを目的とする。

1. 研究対象と調査方法

1) 既往研究の調査

国立情報学研究所 (NII) の Web サイトから、論文情報ナビゲーター CiNii Search、学術研究データベース・リポジトリ NII-DBR、書籍検索 Webcat Plus、科研費補助金データベース KAKEN を調査した。

アンビルドアーキテクトについての書籍は、磯崎新の1968年の著作（出版1975）「建築の解体—1968年の建築状況」があり、1980年代のポスト・モダニズム建築の到来と崩壊、非構築系建築の出現を正確に予測している。脱構築系の建築家については入江徹が「脱構築主義の建築展」の背景の考察を行っている¹⁴⁾。また、景気動向と建築の関連では、木村正彦が2006年に国内の建設市場の景気動向指数による分析を¹⁵⁾、2009年に建築循環の建築経済学の観点からの考察を試みている¹⁶⁾。しかし当調査範囲には「株価変動」と「建築家の思想発信期→実現時期」の関連を分析した研究は無いため、既往の研究成果も踏まえ、本稿で検討したい。

2) 本稿での検討方法

「建築家が思想を構築しそれを発信して社会を啓蒙し、デザイン空間の実現に至る」過程を景気動向との関連も踏まえて検討するため、20世紀建築の3大巨匠と脱構築系の建築家について1900年～2010年のダウ平均株価の推移と関連付けて論考を試みる。ここで、ダウ平均株価は“6A Sampled History of The Dow Jones Industrial Average, From 1900 to The Present”の Web サイトによった。URL は <http://www.nyse.tv/dow-jones-industrial-average-history-djia.htm> である（2010年9月）。

2. 調査・検討内容

1) ル・コルビュジェのケースのスタディ

ル・コルビュジェ (Le Corbusier, 1887～1965) は、Charles-Edouard Jeanneret の本名で古典的な住宅の設計者として出発したが（図3、1905年の処女作ファレ邸）、1911年のギリシャ・ローマを中心とする「東方旅行」の後、第一次大戦下で建築需要のない1916年、鉄筋コンクリート床版を鉄筋コンクリート柱で支持して構造壁を廃し自由な平面と立面をデザインする「ドミノ・システム」（図4）の思想を構築し特許申請した。生地スイスのラ・ショー美術学校の教鞭をとりなが

ら、1920年より、ル・コルビュジエのペンネームで雑誌レスプリ・ヌーボー (L'Esprit Nouveau) を通じて思想を発信した。王侯貴族の資金に頼った旧来の装飾的な建築とは異なり、近代では市民のための住居を機械化・工業化により装飾を排して実現すべきとし「住宅は住むための機械である (machines à habiter)」等の思想の発信で、まず建築思想家として名声を得た。レスプリ・ヌーボー誌を読んで感銘を受けたベニユス (Georges Besnus) 夫妻がクライアントになり「ル・コルビュジエとしての処女作」を彼に創らせたい、と自邸の設計を依頼し、1922年にベニユス邸 (Villa Besnus、図5) として近代住宅のデザイン空間が実現した。これが、装飾を排し、屋根をフラットにした白い箱型の住宅の最初の実現例である。上野の文化会館等の設計で知られる建築家の前川国男は、学生時代この建築を海外雑誌で見て感動したと回想している¹⁷⁾。



図3 ファレ邸

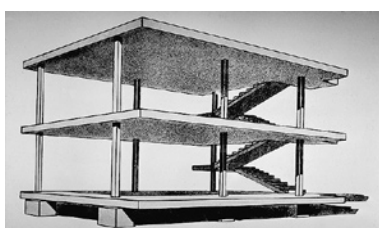


図4 ドミノ・システム



図5 ベニユス邸

1926年の著書「機械時代の建築」(Architecture d'époque machiniste) でドミノ・システムを応用した「近代建築の5原則—ピロティ・屋上庭園・自由な平面・水平連続窓・自由な立面」を唱えた。その思想は1929年着工の代表作サヴォア邸 (Villa Savoye、図6) のデザイン空間として実現した。



図6 サヴォア邸

1927年の国際連盟会館のコンペでは当初当選した案 (図7) が当選取消しとなり¹⁸⁾、その理論づけとして、1928年に CIAM (Congrès International d'Architecture Moderne、シアム、近代建築国際会議) が発足したが¹⁹⁾、ル・コルビュジエはこれを逆手にとり、近代建築思想の交流・向上と発信の場に変容させた²⁰⁾。参加した建築家全員 (図8) が署名した「ラ・サラ宣言」²¹⁾ では、近代における建築的課題が一般の経済問題と密接な関係にあることが述べられている²²⁾。この「ラ・サラ宣言」の思想をもとに多数の空間デザインが実現することになる。

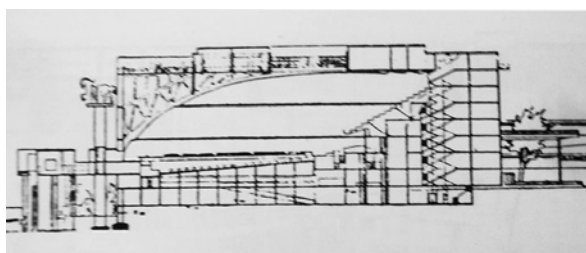


図7 国際連盟コルビュジエ案



図8 CIAM 第1回参加者

ル・コルビュジエは都市計画ではパリの超高層化を唱え、塔状都市（1921）、300万人の現代都市（図9、1922）、ヴォアザン計画（図10、1925）、パリ計画（1937）と、次々に発展的に立案した。いずれも実現しなかったが、第2次大戦後の1951年、独立インド初代首相ネルーの依頼により、チャンドイガルで都市のデザイン空間を実現した（図11）。また1933年のCIAM第4回会議ではル・コルビュジエが主導して機能的都市をテーマにアテネ憲章を採択し²³、建築家ルシオ・コスタ(Lucio Costa、1902～1998)による1956年のブラジリア新首都のデザイン空間実現に結び付けた。

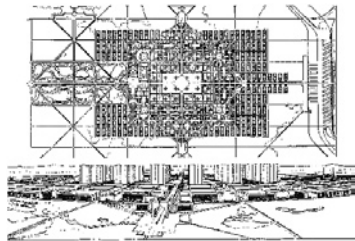


図9 300万人の現代都市



図10 ヴォアザン計画



図11 チャンドイガル計画

図12は、ル・コルビュジエが建築思想を発表した時期と、その作品が実際に建築として実現された時期²⁴⁾²⁵⁾をダウ平均株価との関連で示したものである。これを見ると、「ラ・サラ宣言」にあるとおり、経済と密接な関係にある近代デザイン空間の実現の為に、建築思想を練り上げてメディアを通じて情報発信した両大戦期や恐慌時と、それが実現された時の景気動向との強い関連が見て取れる。ここで重要なことは、ル・コルビュジエが投機家のように景気を先読みして行動したわけではなく、不況下で建築思想家としての雌伏の時期を過ごし、積極的に情報を発信した事実である。

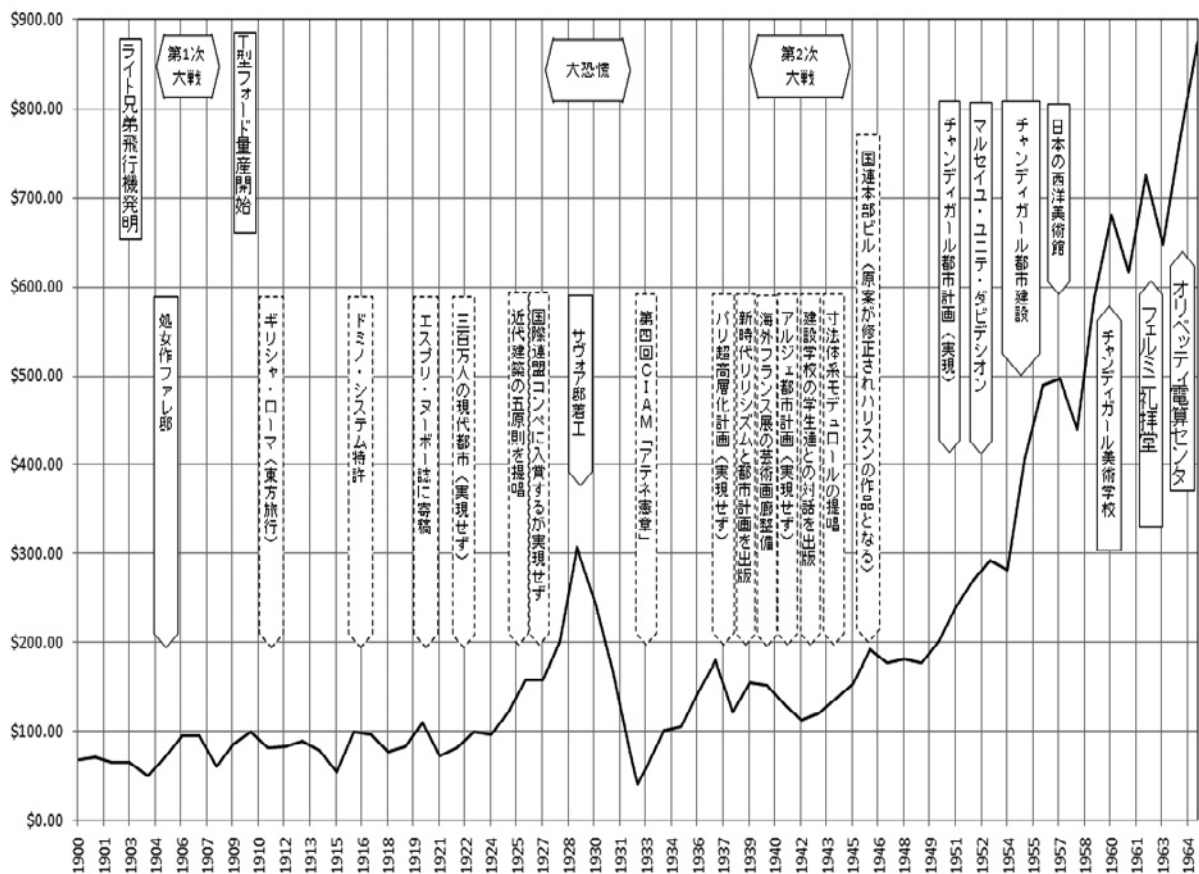


図12 ル・コルビュジエの活動とダウ平均株価との関連

2) ミース・ファン・デル・ローエのケースのスタディ

ル・コルビュジエはコンクリートによる建築思想を追求したが、ミース・ファン・デル・ローエ (Ludwig Mies van der Rohe, 1886~1969) は、鉄とガラスによる建築思想を追求した。第一次大戦前からドイツでは無産労働者の住居は賃貸兵舎と呼ばれる劣悪な住環境にあり²⁶⁾、ミース・ファン・デル・ローエもミュラー邸 (Haus Kröller-Müller, 1912) 等の実験的住宅を提案して実現されずにいた。第一次大戦後「ドイツ人すべてに健康な住宅を保証する」²⁷⁾ ワイマール憲法155条に基づき、労働者向けの革新的な大規模住宅団地「ジードルンク (Siedlung)」がドイツ各地で計画された時、ミース・ファン・デル・ローエも1927年シュトゥットガルト郊外のバイセンホフのジードルンクに主導的な立場で参画しデザイン空間を実現した(図13)。この実績で、1929年ドイツ・ワイマール共和国政府からの設計依頼によるバルセロナ万博ドイツ館²⁸⁾ (Barcelona-Pavillon, 図14) で内外の境界を曖昧にしたデザイン空間を実現し、1930年にはトゥーゲントハット邸 (Haus Tugendhat, 図15) において、より実用的で明快な思想によるデザイン空間を実現させた。



図13 バイセンホフ
ジードルンク



図14 バルセロナ万博
ドイツ館



図15 トゥーゲントハット邸

ガラス張りの摩天楼はミース・ファン・デル・ローエ設計作品の代名詞ともいえるが、そこに至る道も平坦ではなかった。1921年にベルリン市フリードリヒ街のオフィスビル設計競技にガラス張りの摩天楼を鉛筆ドロイグ (図17) で提案し²⁹⁾、翌年にはより高い曲面の模型 (図18) を提案したが、両案ともに時代を先取りしすぎており、「ガラス箱建築」を嫌うヒトラーの政権掌握もあって、ベルリンでは彼の思想はついに実現できなかった。しかし絶望することなく、バウハウスでの教官 (後に校長) として生計を立てながらドイツ国内で建築思想の発信を続けた。その後、ナチスの迫害によりバウハウスが閉鎖され、自身も故国ドイツを追われたが³⁰⁾、アメリカのイリノイ工科大学で教鞭をとることで糧を得て、かつ、学生への指導や作品展を通じて、イリノイ州やシカゴ市で建築思想の発信を行った³¹⁾。第二次大戦後の1950年に裕福な独身女医の個人住宅ファーンズワース邸 (Farnsworth House, 図16) のデザイン空間で名声を得て³²⁾、彼のガラス張り摩天楼がようやく実現したのは1951年シカゴ市のレイクショアドライブ・アパートメント (Lake Shore Drive Apartments, 図19) においてであった³³⁾。



図16 ファーンズワース邸



図17 ベルリンガラス摩天楼

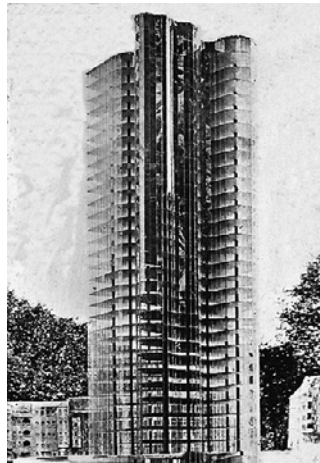


図18 同左 曲面模型



図19 レイクショアドライブ

図20に、ミース・ファン・デル・ローエが建築思想を発表した時期と、その作品が実際に建築として実現された時期をダウ平均株価との関連で示す。これを見るとミース・ファン・デル・ローエは、二度の大戦やナチスの台頭といった政治的状況に大きく左右されながらも、その思想を粘り強く発信し続け、好況の時期にそのデザイン空間の多くが実現された。彼は「(デザインの) 神は細部に宿る」「レス・イズ・モア」「(奇抜なデザインで) 興味を引こうと思うな (デザイン的に) 善くあれ」³⁴⁾等の思想を発信し、20世紀建築に最も影響を与えた建築家となった。

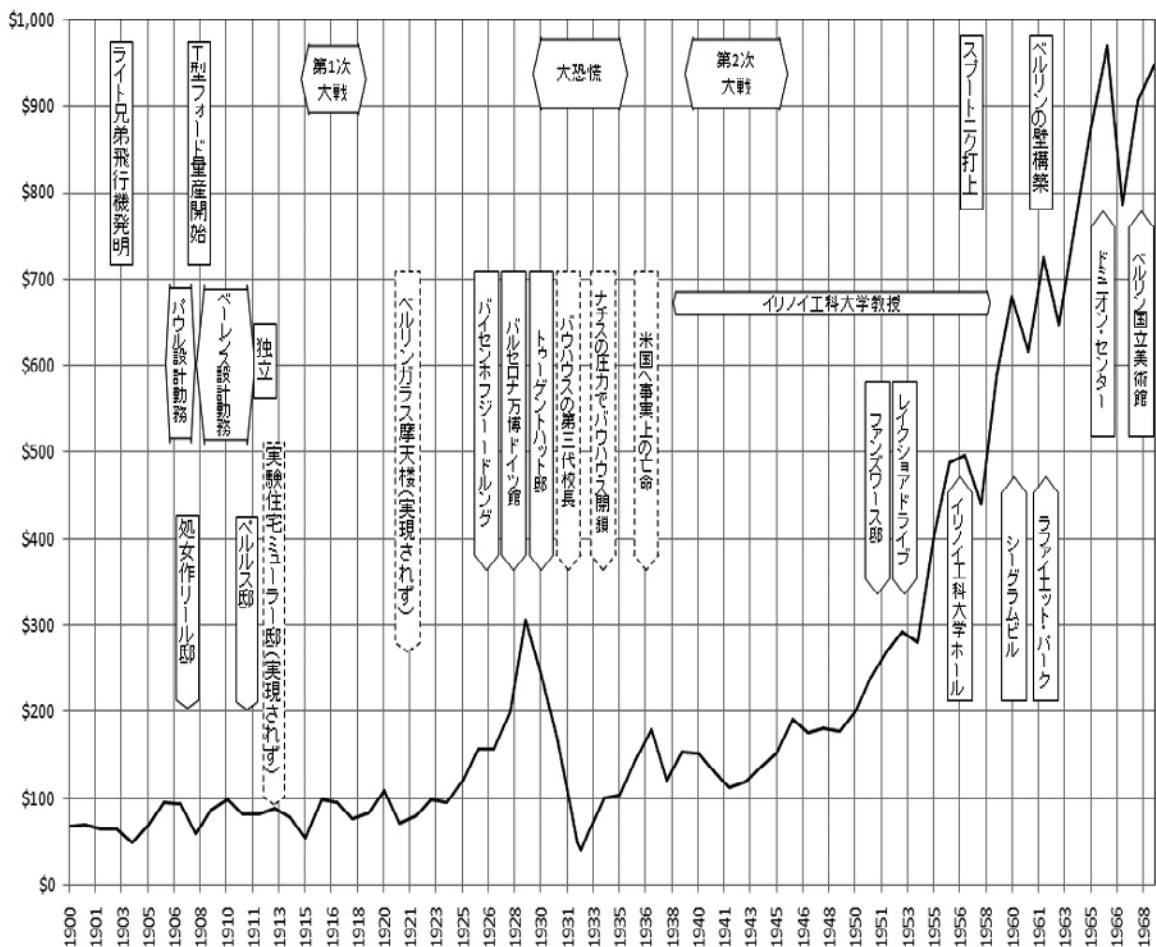


図20 ミース・ファン・デル・ローエの活動とダウ平均株価との関連

3) フランク・ロイド・ライトのケースのスタディ

フランク・ロイド・ライト (Frank Lloyd Wright, 1867~1959) の場合は景気動向以上に、クライアント夫人との不倫逃避行スキャンダルによる「不遇の時代」の影響が大きかった³⁵⁾。しかし逃避行先で未建築作品を中心に透視図と平面図を再構成し清書して1910年に「フランク・ロイド・ライト建築図面集」(Ausgeführte Bauten und Entwürfe von Frank Lloyd Wright) をドイツのヴァスマート (Ernst Wasmuth) 社から発行した (図21)。これはヴァスマート・ポートフォリオと呼ばれ、ヨーロッパのモダニズム建築に大きな影響を与えた³⁶⁾。他の2巨匠より20歳も長老のフランク・ロイド・ライトは、恩師サリヴァン (Louis Henry Sullivan, 1856~1924) から得た、形は機能に従う (Form follows function) という思想や、浮世絵から得た、不要なものを省く⁴⁴⁾ という思想を融合・発展させたプレイリースタイル (Prairie Style) の思想を発信して、これが後にヨーロッパの建築家によりモダニズム建築のデザイン空間として実現されたのである。

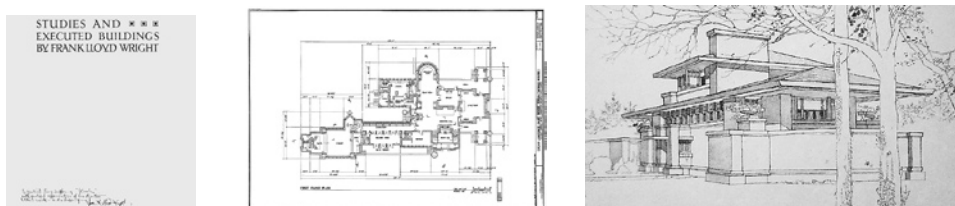


図21 ヴァスマート・ポートフォリオの一部

フランク・ロイド・ライト自身は帰国後、モダニズム建築思想と一定の距離を置く有機的建築の思想を唱えた。不遇時代には浮世絵を売って糧を得³⁷⁾、自邸兼事務所「タリアセン」を建て思想を発信した。不倫への社会的制裁、自宅への放火や家族の殺害・自身の破産や投獄等の多くの苦難を乗り越え³⁸⁾、1928年には会社を設立してホテル設計の仕事も得、ようやく不遇の時代が終わる。ところが翌1929年の大恐慌でホテル建設は中止になり、1928年からの8年で実現した建物は2軒に留まった。しかしその間、自伝の執筆・出版と、建築家養成塾 (タリアセン・フェローシップ) での自給自足による教育活動³⁹⁾ を通じ、有機的建築の思想を発信・啓蒙した。これが後の成功に結び付いた。タリアセン・フェローシップの徒弟カウフマンの父がライトの思想に深く共鳴して⁴⁰⁾ 別荘の設計を依頼し、1936年に落水荘 (Fallingwater) が実現された⁴¹⁾。共鳴者は他にも現れ1939年にジョンソンワックス本社ビル (Johnson Wax Headquarters) が実現された。その後も有機的建築の思想の発信と啓蒙を行い⁴²⁾、好況期を捉えてモリス商会 (Morris Gift Shop, 1948、図22)、ユニテリアン教会 (Unitarian Society, 1951、図23)、プライスタワー (Price Tower, 1953) がデザイン空間として実現された。遺作グッゲンハイム美術館 (Guggenheim Museum, 図24) も、景気動向などの影響を受けながらも⁴³⁾、フランク・ロイド・ライトの死後、デザイン空間として実現された。



図22 モリス商会



図23 ユニテリアン教会



図24 グッゲンハイム美術館

図25に、フランク・ロイド・ライトが建築思想を発表した時期と、その思想がデザイン空間として実現された時期をダウ平均株価との関連で示す。彼の場合、不倫逃避行スキャンダルによる不遇の時代の影響も大きいですが、それでも景気動向や二度の世界大戦と大恐慌の影響が顕著である。

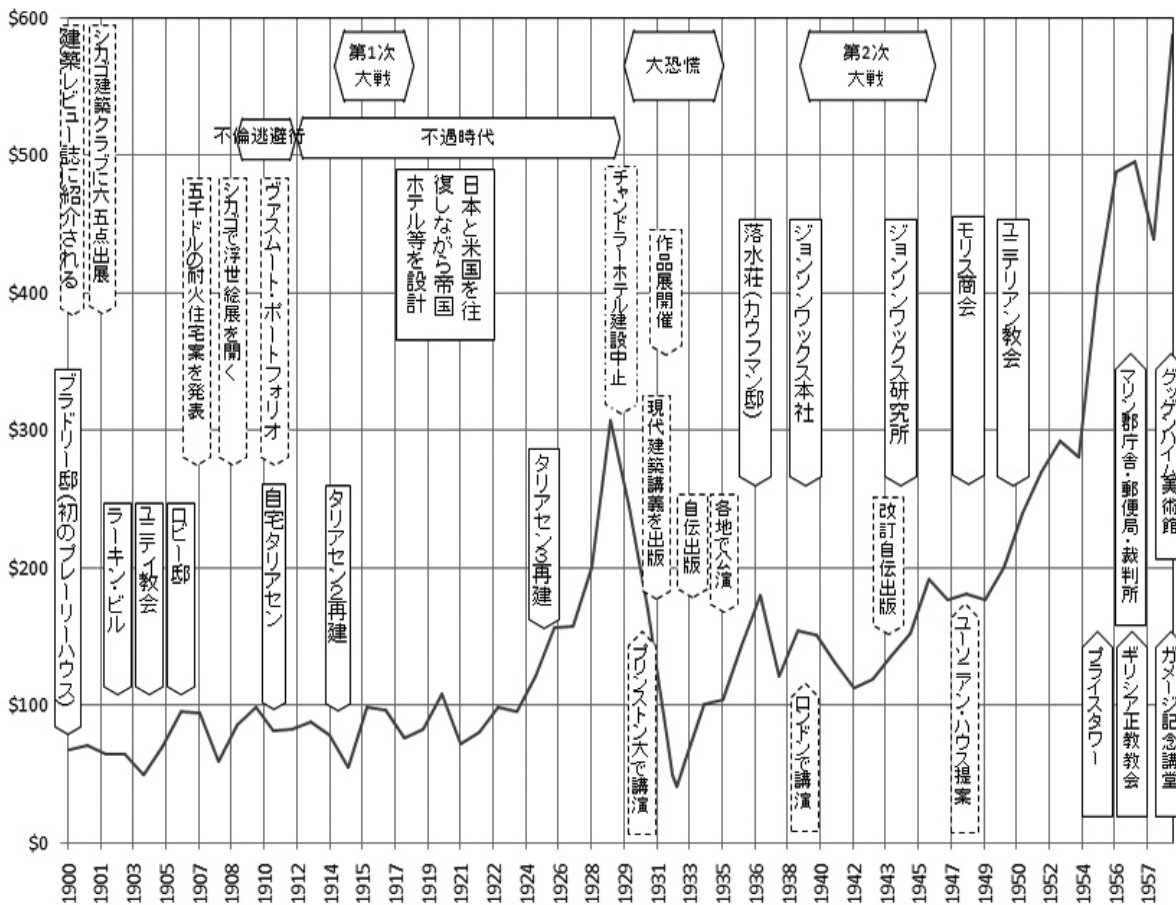


図25 フランク・ロイド・ライトの活動とダウ平均株価との関連

4) 脱構築主義の建築家たちのケースのスタディ

思想からデザイン空間の実現に至った建築家として、真先に連想されるのは脱構築主義の建築家たちであろう。脱構築主義の建築家たちとは、フィリップ・ジョンソン (Philip Johnson、1906～2005) らが1988年ニューヨーク近代美術館 (MOMA) で開催した「脱構築主義の建築展」⁴⁵⁾ (Deconstructivist Architecture Exhibition) で紹介した、フランク・ゲーリー (Frank Owen Gehry、1929～)、ピーター・アイゼンマン (Peter Eisenman、1932～)、レム・コールハース (Rem Koolhaas、1944～)、ベルナール・チュミ (Bernard Tschumi、1944～)、ザハ・ハディド (Zaha Hadid、1950～)、ダニエル・リベスキンド (Daniel Libeskind、1946～) コープ・ヒンメルブラウ設計事務所 (Coop Himmelblau、1968～) の7者らに与えられた呼称であり、脱構築主義建築とは、「ボリュームの不整合なぶつかり合いや、雑多な素材の混合などによって破壊的なデザインを行う建築」である⁴⁶⁾。レム・コールハースが1978年に著書「錯乱のニューヨーク」⁴⁷⁾ (Delirious New York、図26) でその思想を発表して一躍有名になり、最年長のフランク・ゲーリーも1979年に小住宅の自邸を破壊的なデザインで改修し (図27) 注目を集めたが⁴⁸⁾、脱構築主義の建築が国際的に受け入れられたのは、1982年のパリ19区のラ・ヴィレット公園 (Parc de la Villette) 国際建築設計コンペで、ベルナール・チュミ案 (図28) が採用された時である⁴⁹⁾。

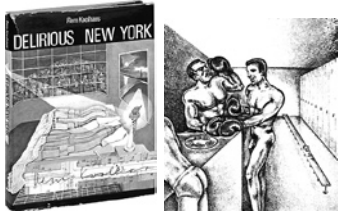


図26 錯乱のニューヨーク



図27 ゲーリー自邸



図28 ラ・ヴィレット公園

1989年にピーター・アイゼンマンがオハイオにウェクスナ芸術センタ（Wexner Center for the Arts、図29）、フランク・ゲーリーがドイツのヴィトラ・デザイン・ミュージアム（Vitra Design Museum in Weil am Rhein、図30）のデザイン空間を実現するに至り、脱構築主義の空間デザインが本格化した。



図29 ウェクスナ芸術センタ



図30 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

1993年にはザハ・ハディドはヴィトラ社工場（Feuerwache für das Vitra-Werk in Weil am Rhein、図31）の空間デザインをドイツで実現し、その成果が2004年の女性初のプリツカー賞受賞に結実した。1996年にはベルナール・チュミが著書「建築と断絶」（Architecture and Disjunction）で、レム・コールハースも著書「S, M, L, XL」でその思想を発信し⁵⁰⁾、共にベストセラーとなった。1997年フランク・ゲーリーは、アメリカのグッゲンハイム財団をクライアントに得て、スペインのバスク自治州にビルバオ・グッゲンハイム美術館（Museo Guggenheim, Bilbao、図34）を実現させ、チタニウムの曲面による異様なデザインで年間100万人の観光客の誘致に成功し、地元には大きな経済効果をもたらした。この経済的成功により脱構築主義建築は経済面でも市民権を得ることになる。



図31 ヴィトラ社工場



図32 建築と断絶

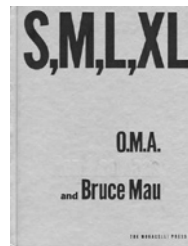


図33 S, M, L, XL



図34 ビルバオ美術館

20世紀末からの急激なダウ平均株価の高騰を受け、脱構築主義の流れはさらに加速した。2000年、コープ・ヒンメルブラウは19世紀末に建設されたウィーン市のガスタルクを商業施設・集合住宅・ホールの複合施設として増改築し、歴史的な外観を保存しながら、ウィーンの新たな都市センターとしてのデザイン空間を実現した（Gasometer Wien, 図35）。2001年にはダニエル・リベスキンドが国際建築設計コンペに勝ってベルリン・ユダヤ博物館（Jüdisches Museum Berlin, 図36）を、2002年フランク・ゲーリーがロサンゼルスにウォルト・ディズニー・コンサートホール（Walt Disney Concert Hall, 図37）のデザイン空間を実現した。



図35 ウィーンガスタルク



図36 ユダヤ博物館



図37 ウォルト・ディズニー・ホール

ダウ平均株価は2003年に一時急落するが、ダウ平均株価1万\$を回復した2004年にはレム・コールハースがシアトル中央図書館（Seattle Central Library, 図38）を、2005年にはザハ・ハディドがドイツにフェアノ科学センタ（Phäno-die Experimentierlandschaft, ein Wissenschaftsmuseum, 図39）を、2006年にはピーター・アイゼンマンがフェニックス大学スタジアム（University of Phoenix Stadium, 図40）をデザイン空間として実現させた。

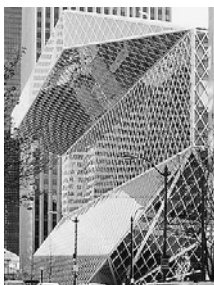


図38 シアトル中央図書館



図39 フェアノ科学センタ

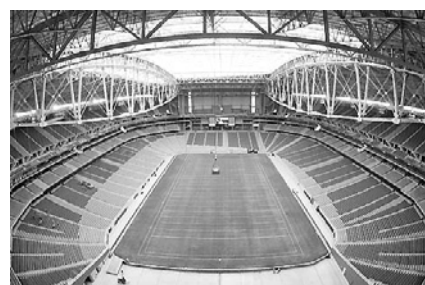


図40 フェニックス大学スタジアム

ダウ平均株価高騰に代表される急速な経済成長の影響が脱構築主義の建築家たちのデザイン空間の実現に顕著に結び付いたが、彼らがアンビルドアーキテクトであった時期に、建築思想を哲学的に構成し発信したのも間違いでない。彼らの多くはフランスの哲学者ジャック・デリダ（Jacques Derrida, 1930～2004）の思想の影響を受け、また、ロシア構成主義（構築主義）⁵¹⁾（Конструктивизм）の影響もうけている。1924年のリシツキー（Эль Лисицкий, 1890～1941）の雲の鏡（горизонтальных небоскребов, 図41）や、1927年のレオニドフ（Иван Ильич Леонидов, 1902～1959）の「レーニン研究所（Институт Ленина, 図42）は、スターリンの権力掌握後に建築設計コンペ等によって排除され、デザイン空間の実現に至らなかったが⁵²⁾⁵³⁾、脱構築主義の建築家たちによってその思想が復活されデザイン空間として実現したのである。



図41 雲の燈

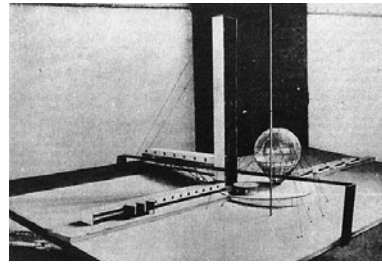


図42 レーニン研究所



図43 ワイリー劇場

破壊的なデザインの脱構築主義の空間デザイン思想がこれほど実現したのは、モダニズム的な「単純さの美学」が行き詰まり、古典回帰を視野に入れたポストモダン建築もまた行き場のない混迷の中にあっただ中、脱構築主義の建築が空間デザインの現代芸術的な解となり得たからであろう⁵⁴⁾。同時に、景気動向との関連による図44を見れば、経済的バブルの時期に、奇抜なデザインによる集客性が期待された面が読み取れる。そして、2009年の世界同時不況後、欧米では建築に対する価値観が効率性や機能性重視に変化し、より控え目なデザインが台頭している⁵⁵⁾。今やコールハースもシンプルな箱型建築を認め、ダラスのワイリー劇場 (Wyly Theatre、図43) では実験精神を外観でなく劇場の最先端装置で表現し「この単純そのものの建築に不平をいう人は誰もいない」と説いている。これからは現代の複雑な生活を反映した建築などの空間デザインにおける革新精神は新テクノロジーを指向する可能性が高い⁵⁶⁾。

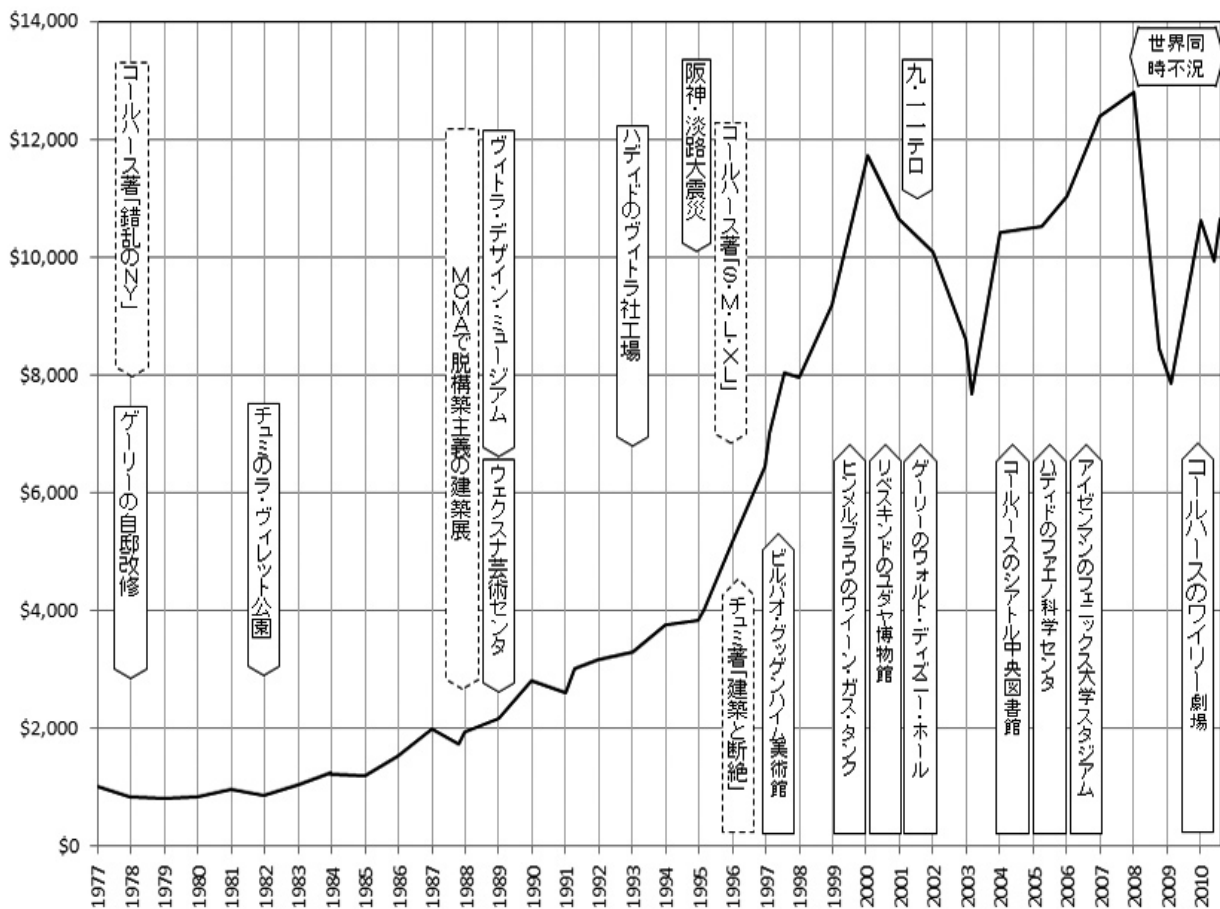


図44 脱構築主義の建築家たちの活動とダウ平均株価との関連

3. 調査・検討結果の整理と今後の課題

現在の空間デザイナーの活動の参考に供するため、ダウ平均株価の変遷のレイヤー上に、戦争や重大事件、個人的背景などのレイヤーと、建築家等の空間デザイナーの「思想の形成・発信時期」と、「デザイン空間の実現時期」のレイヤーを重ね、相互の関連について調査・検討・考察を行った。結果を整理すると、当初の仮説「不況期の建築思想の発信が好況期のデザイン空間の実現に寄与する」は、不況期に不遇期を加えれば、ほぼ検証されたと考える。

今後は、米国のダウ株価以外に、当該各国の株価変動や建設物価の変動、建築技術の発達や新材の開発等を加えて検討したい。また、3大巨匠と脱構築主義のみでは1969年～1977年の検討が欠けるので、ルイス・カーンやチーム X、メタボリズムやポストモダニズムのケースのスタディもやりたい。

4. 結語

建築家等の空間デザイナーをを目指す学生の教育機関に身を置く立場として、空間デザインの実現には自らの建築思想を確立し⁵⁷⁾ 情報発信することが有効であることを確認できた。

世界同時不況以降、大胆な空間デザインの実現が困難な時期であるが、建築家マシュー・フレデリック (Matthew Frederick) が述べているように、そもそも建築家は50歳以前に成功するものは多くない遅咲きの世界であり、デザイナー人生の計画も長期で考える事が肝要である⁵⁸⁾。

空間デザイナーを目指す若者は(経済情勢による影響は回避不可能であるが)自身の成長の為にデザインプロセスも重視し⁵⁹⁾、アンビルド作品であっても情報発信を行うことを勧めたい⁶⁰⁾⁶¹⁾。幸い、現代は急速にIT化が進み、Webサイト等での情報発信が簡単に出来る時代である。

なお、今後の空間デザイン思想の発信は論説・ドローイング・模型に加えウォークスルー映像の増加が予想される。なぜなら建築等のデザイン空間はそこに身を置いて理解するもので、その表現は写真よりもウォークスルー映像等の仮想現実空間が適しているからである⁶²⁾。これに対しても、現在のIT環境下では、YouTube等で既成のウォークスルー映像を、ブログ上でVRML等によるリアルタイムウォークスルー映像を容易に発信することができる。

建築家等の空間デザイナー自身もこうしたクリエイター的な越境的な仕事を行うことで⁶³⁾ 糧を得る機会が増えるであろうし、今後のITの発達による在宅勤務やオンラインストアの増加に対する空間デザイナーの立場の変化⁶⁴⁾ にも対応していけるだろう。筆者も今後、自らの建築思想の構築と発信をこうした方法も含めて試みていきたい。

参考文献

- 1) 鈴木成文、上野千鶴子、山本理顕、布野修司、五十嵐太郎、山本喜美恵：「51C」家族を容れるハコの戦後と現在、平凡社、p87、2004
→上野千鶴子談「建築家はそもそも空間帝国主義者である」
- 2) 日経アーキテクチュア編集部：建築家であること—建築する想いと夢、日経BP社、p16-18、2003
→安藤忠雄談「開発者も住民も都市の景観には責任を持つ必要がある」
- 3) 前掲書1)、p50-52、p72-73
→山本理顕は豊洲公団住宅の玄関の扉を鉄からガラスに変え、居住空間の閉鎖性を打破しようとした。
- 4) Donald A. Norman、野島久雄訳：誰のためのデザイン?—認知科学者のデザイン原論、新曜社、p43、1990
→「顧客は購入時には値段と外観と見栄、購入後は機能性と使いやすさに注意を払う」
- 5) 平松剛：磯崎新の「都庁」—戦後日本最大のコンペ、文藝春秋、p37、2008

- 磯崎新流コンペ要綱の読み方講座「真っ先に審査員の名前を見ること」
- 6) 山本理顕、芦原太郎、伊東豊雄、馬場璋造、櫻井潔、隈研吾、岡本賢:「コンペに勝つ!」、新建築社、p23、2006
→櫻井潔談「まず審査員が誰かを読むことです。磯崎新か槇文彦か原広司かで全く取り組み方が違ってきます。」
 - 7) 前掲書5)、p359
→磯崎新談「経験上、出来レースじゃないコンペなんて世界中どこにもないと思ってます」
※筆者注: 出来レースという表現にはウイトも含まれるであろうが、コンペ審査に束縛が多いのは事実であろう。
 - 8) 前掲書5)、p329
→1931年のソビエト・パレスのコンペでのコルビュジェ案は、当時高校生の丹下健三がこれを見て感動し、建築家を目指すと決心した程の巨匠渾身の力作であったが、かすりもせずに落選した。当選案はパレスと呼ぶには程遠いレーニン像で、スターリンは高さでエンパイヤステートビルを超えることに意欲を燃やした。
 - 9) Le Corbusier、吉阪隆正訳: 建築をめざして、鹿島出版会、p21、1967
→「国際連盟のコンペで実施案とされた筈の私(コルビュジェ)の設計は結局実現されなかった。(中略)何という破廉恥!アカデミーのその全軍を動員したスキャンダル!」
 - 10) 磯崎新: 磯崎新の思考力—建築家はどこに立っているか、王国社、p171-174、2005
→「スコピエ計画コンペで一等をとったが、行ってみたら、国連方式で二等案他の4チームの混成で、いかに僕たちのデザインが無くなっていくかを見る羽目になった」
 - 11) 磯崎新: 建築の解体—1968年の建築情況、美術出版社、p299、1975
 - 12) 馬場璋造: こんな建築家になれるか、王国社、p4-5、2004
 - 13) Cathleen McGuigan: STARCHITECTURE A Modest Proposal, Newsweek28223-6/21, p50-54, 2010
 - 14) 入江徹: 展覧会—ディスコンストラクティビスト・アーキテクチュアとその背景、日本建築学会計画系論文集第551号、p329-334、2002
 - 15) 木村正彦: クズネッツ循環(建築循環)の建築経済学の観点からの一考察、日本建築学会東海支部研究報告集(47)p629-632、2009
 - 16) 木村正彦: 国内建設市場の景気動向指数による分析手法の1考察、日本建築学会第22回建築生産シンポジウム論文集、p127-134、2006
 - 17) 越後島研一: ル・コルビュジェ DVD-BOX 封入ブックレット、レントラックジャパン、p8、2006
 - 18) 前掲書9)、p23
 - 19) Sigfried Giedion、太田實訳: 新坂「空間・時間・建築」、丸善、p612-620、2002
→CIAMの設立目的は、国際連盟本部の国際建築設計でのル・コルビュジェ案の排斥が目的であった。
 - 20) Leonardo Benevolo、武藤章訳: 近代建築の歴史(下)、鹿島出版会、p127、1979
→ラ・サラ宣言の原案はル・コルビュジェが作成したものとされている。
 - 21) Ulrich Conrads、阿部公正訳: 世界建築宣言文集、彰国社、p144、1970
→ラ・サラ宣言「美学的・形式主義的な方法に準拠したアカデミーの方法は近代建築の障害でしかない」
 - 22) 同上、p140
→ラ・サラ宣言「経済的に最も有効な生産方法は合理化と規格化である」
 - 23) Le Corbusier、吉阪隆正訳: アテネ憲章、鹿島出版会、p44、1971
 - 24) Stanislaus von Moos、住野天平訳: ル・コルビュジェの生涯—建築とその神話、彰国社、p337-347、1981
 - 25) 安藤忠雄: ル・コルビュジェの勇氣ある住宅、新潮社、p116-126、2004
 - 26) 相馬保夫: ドイツの労働者住宅、山川出版社、p48、2006
 - 27) 後藤俊明: ドイツ住宅問題の政治社会史—ヴァイマル社会国家と中間層、未来社、p20、1999
 - 28) Jeannine Fiedler, Peter Feierabend: BAUHAUS, Ullmann Press, p219, 2007
 - 29) 同上、p222
 - 30) Phyllis Lambert: Mies in America, Harry N. Abrams Press, p157, 2001
 - 31) 同上、p268
 - 32) 同上、p343
 - 33) 同上、p350

- 34) Diana Rowntree、三輪正弘訳：インテリアデザイン入門 彰国社、p224、1980
- 35) 大久保美春：フランク・ロイド・ライトー建築は自然への捧げ物、ミネルヴァ書房、p99、2008
→1909年、ライトは妻キャサリンと6人の子供を置いてクライアントの妻メイマと欧州へ逃避行したが、これは大スキャンダルになり、帰国後の米国内では仕事が来なくなった。設計依頼はごく一部の知人と日本からの帝国ホテル等の仕事のみであった。
- 36) 坂谷雄也、川向正人：R.M. シンドラーの空間概念の形成とヴァスマート・ポートフォリオとの関係、日本建築学会大会学術講演梗概集、p89-90、2004
- 37) 前掲書35)、p188
→ライトが1905年以降の7度の来日等で収集した膨大な量の浮世絵は、ニューヨークの美術商に1枚売ると1ヶ月暮せたという。
- 38) 前掲書35)、p121-194
→1914年8月タリアセンは放火され炎上し愛人メイマと2人の子供が殺害された。1922年最初の妻キャサリンとの離婚が成立し翌年ミリアムと結婚するが、1925年タリアセンが再度炎上し、1926年には愛人オルギヴァナを別の州に連れ出してマン法違反で投獄される。同年10月に破産を宣告され1928年1月にタリアセンも売却された。友人と親族が会社を設立してタリアセンを買い戻し、同年8月にオルギヴァナと結婚、9月には3年ぶりにタリアセンに戻り、アリゾナの資産家チャンドラーから大型リゾートホテルの仕事を受注した。
- 39) Donald Leslie Johnson: Flank Lloyd Wright versus America The 1930s, The MIT Press, p234, 1994
- 40) Flank Lloyd Wright 著、Edgar Kaufmann 編、谷川正己訳：ライトの建築論、彰国社、p10、1970
→落水荘のクライアントで「カウフマンズ百貨店」の社主でライトの弟子エドガー Jr. の父でもあったカウフマンはライトの思想に深く共鳴し、その研究者としてライトの建築論選集を発刊するまでに至った。
- 41) 前掲書35)、p74-78
- 42) Frank Lloyd Wright、三輪直美訳：有機的建築ーオーガニックアーキテクチャー、筑摩書房、p134、2009
- 43) 前掲書35)、p220-221
→一時は美術館の建設すら危ぶまれたが、計画がはじまって13年目ようやく着工に漕ぎつけた。
- 44) Julia Meech: Frank Lloyd Wright and the Art of Japan – The Architects Other Passion, Harry N. Abrams Press, p21, 2001
- 45) 隈研吾：グッドバイ・ポストモダンー11人のアメリカ建築家、鹿島出版会、p187、1989
→1987年、隈研吾はフィリップ・ジョンソンから MOMA での「脱構築主義の建築展」（当時の名称は「完全性の侵犯」の予定だった）の開催計画を聞かされ、日本人建築家の紹介も依頼された。
- 46) 熊倉洋介、末永航、羽生修二、星和彦、堀内正昭、渡辺道治：西洋建築様式史、p180、美術出版、2010
- 47) Rem Koolhaas、鈴木圭介訳：錯乱のニューヨーク、筑摩書房、p192-200、1999
→マンハッタンに1931年に建設された摩天楼内の男性専用「ダウタウン・アスレチック・クラブ」で、摩天楼内のフロア間の断絶をドローイング「n階のフロアで裸でグローブをつけ生牡蠣を食べる」で表現した。コールハースはこの状態を決定的不安定（Definitive Instability）という思想でとらえ、欠点（閉鎖性）を解決しながら、決定的不安定の思想によるデザイン空間の実現に尽力した。
- 48) 前掲書46)、p179
- 49) 前掲書5)、p61-67、2008
→ラ・ヴィレットのコンペ審査で審査員の磯崎新はコールハース案を推したことが語られている。
- 50) Rem Koolhaas, S M L XL: Second Edition, Monacelli; Subsequent 出版、p604、1998
→（S M L XL はコールハース自身が Web サイト上に全文を掲載している。以下意識）私はコンペに勝ちたいのか？審査員の趣向を読み政治的背景を読めば勝てる。しかし審査員が理解できない自分独自の考えがまず存在する。コンペに勝ちたいと望むことは、自分の望む作品を得ることとは異なる。だが、偏執狂でも駄目だ。審査員の判定が統計処理を踏まえた現実的なバランスに立っている場合、その趣向や政治的背景は現実的メッセージでもある。それを無視すべきではない。
- 51) 前掲書10)、p158-159 磯崎新「ロシア構成主義は、ロシア構築主義と訳さないと意味が通らない。」
- 52) 前掲書5)、p325-329
→ロシア革命に触発されたロシア・アヴァンギャルド前衛建築は、スターリンの権力掌握以降、コンペという一見民主的な手続きを利用して排除されていった。
- 53) Jonathan Glancey、清野有希他訳、中川武夫監訳：失われた建築の歴史、東洋書林、p250、2010

→スターリンは1932年に「芸術に関する組織の構造改革」法令を發布した。それを批判した者はシベリアで生涯を終える可能性が高かった。

- 54) 本田昌昭、末包伸吾、岩田章吾：建築の20世紀、学芸出版社、p205、2009
- 55) Cathleen McGuigan：「バブルはじけて脱個性派建築へ」ニューズウィーク2010年6月号、阪急コミュニケーションズ、p54、2011
- 56) 同上、p57
- 57) 菊竹清訓：代謝建築論一か・た・かたち、彰国社、p213、1969
→思想のない建築とは矛盾と混乱を持った建築である。
- 58) Matthew Frederick、藤原恵洋訳：建築デザイン101のアイデア、フィルムアート社、p101、2009
- 59) 同上、p86
- 60) 前掲書10)、p171-174、2005
→近代建築の巨匠たちの実現作品はごくわずかで、建築史が扱うのは彼らの大量の「アンビルド」作品が主である。実現作品はその二流のコピーにまぎれてほとんど気づかれない。
- 61) 前掲書19)、p593、2002
→大建築家グロピウスは70歳の時「私はまだ本当には何も建てていない」といていた。(中略)まったく同じ運命が現代建築のほとんどすべてのパイオニアの上に降りかかっていた。
- 62) 岸和郎、植田実：ケース・スタディ・ハウス—プロトタイプ住宅の試み、住まいの図書館出版局、p259、1997
→「写真家ジュリアス、あなたの責任ですよ」建築家ノイトラの作品写真集に感動し設計を依頼したクライアントは、建築写真家による巧みな写真のマジックに騙されたことに不満をぶつけた。
- 63) 澤井聖一編：新世代建築家デザイナー100、エクスタレッジ出版、2009
→五十嵐太郎「バブル崩壊以降マーケットが縮小し、建築家は越境的に仕事をせざるを得ない」
- 64) 日経アーキテクチュア編：NA 建築家シリーズ02「隈研吾」、日経 BP 社、p159、2010
→宮台真司「英語でいう architecture っていう概念がいわゆる箱を含めた物理的空間からコンピュータプログラムへと拡張されてきたのが今という時代です。」

・・・・・・・・・・・・・・・・引用写真出典・・・・・・・・・・・・・・・・

- 図3 From the Galerie Taisei Website, “Villa Fallet”
- 図4 From 参考文献25)、p20-21、“Maison Dom-ino”, Copyright (C) Fondation Le corbusier
- 図5 From Jacques Barsac 監督 Le Corbusier 生誕100年記念伝記映画 Le Corbusier (レントラックジャパン社刊) DVD からキャプチャ “Villa Besnus”
- 図6 From the Wikimedia Commons “The Villa Savoye in Poissy” Photograph by Valueyou
- 図7 From 参考文献5)、p17、“国際連盟案 大会議室断面”、Copyright (C) Fondation Le corbusier
- 図8 From BBC – The Open University Website, “CIAM”
- 図9 From 参考文献24)、p156、fig91 “300万人の現代都市”、Copyright (C) Fondation Le corbusier
- 図10 From John Peter 著 Oral History of Modern Architecture、N. Abrams 出版、p142、“Voisin plan”, Copyright (C) Fondation Le corbusier
- 図11 From the Wikimedia Commons, “Chandigarh Secretariat”, photographer duncid
- 図13 From essential-architecture.com, Bauhaus site “Weissenhof Siedlung in Stuttgart (1927)”
- 図14 From the Wikimedia Commons, “Barcelona Pavilion 2006”, photographer Siehe unten
- 図15 From the Wikimedia Commons, “Villa Tugendhat”, photographer Daniel Fišer
- 図16 From American-Architecture. Website, “A winter view of the Farnsworth house in 1971”
- 図17 From 参考文献30)、p35、“Wettbewerb Hochhaus Friedrichstraße, Berlin”
- 図18 From 参考文献30)、p37、“Hochhaus an der Friedrichstraße, Modell nach Entwurf”
- 図19 From the Wikimedia Commons, “860-880 Lake Shore Drive Chicago”, photographer JeremyA
- 図21 From The University of Utah, Marriott Library Digital Collections, Browsing items in Complete online access to “the 100 Wasmuth portfolio lithographs.”

- 图22 From the Wikimedia Commons, “V.C. Morris Gift Shop”, photographer Jet Lowe
- 图23 From the Wikimedia Commons, “First Unitarian Meeting House”, photographer Motorrad-67
- 图24 From the Wikimedia Commons, “Guggenheim Museum in Manhattan”, photographer Finlay McWalter
- 图26 From 参考文献47)、p199、fig89
- 图27 From NETROPOLITAN Museum Without Walls website, “Gehry Residence”
- 图28 From the Wikimedia Commons, “A folly in Parc de la Villette”, photographer Saucemaster
- 图29 From the Wikimedia Commons, “Wexner Center Gridwork”, photographer Brad Feinknopf
- 图30 From the Wikimedia Commons, “Vitra Design Museum, rear view”, photographer Sandstein
- 图31 From the Wikimedia Commons, “Vitra company fire station”, photographer Sandstein
- 图34 From the Wikimedia Commons, “Guggenheim Museum Bilbao” photographer MykReeve
- 图35 From the Wikimedia Commons, “Der Gasometer B in Wien-Simmering”, photographer Andreas Pöschek
- 图36 From the Wikimedia Commons, “JewishMuseumBerlinAerial”, photo by Studio Daniel Libeskind
- 图37 From the Wikimedia Commons, “Disney Concert Hall”, photographer Carol M. Highsmith
- 图38 From the Wikimedia Commons, “Seattle Central Library”, photo by DVD-RW (HN)
- 图39 From the Wikimedia Commons, “Phaeno Wolfsburg”, Originator Ingo2802 (HN)
- 图40 From lectrosionics website, “University of Phoenix Stadium”, photo by lectrosionics
- 图43 From checkonsite website, “dee-and-charles-wyly-theatre”